



各事業所やフロアーに掲示

永 寿 会 通 信

黄色い飛行船 第7号

2015年 11月24日

40年前の事件「三島由紀夫と森田必勝」自衛隊乱入、割腹事件から今日へ。

1975年11月25日、東京市ヶ谷の自衛隊駐屯地で、益田東部方面総監の監禁と隊員への決起提起の暴走があり、失敗するや三島と森田が割腹するという事件が起こっています。

画期 法人内の職員皆さんの中では研修でお話ししておりますので記憶しておられると思いますが、中途入職者の場合はその機会がなかった可能性がありますので是非お伝えしておきたいと思えます。

花梨の原産地は中国ですが、古い時代に日本に伝来しており、蜜柑園のように多量の栽培はされていませんが喉の健康に役立つ飴の一部原料に使われたりしています。国内では地域的に山梨や長野に多いようです。

その効用から「杏一益、梨二益、花梨百益」と中国では言われており、花、樹木、果実夫々が人々の生活に生かされています。花はピンク色清楚で可愛らしく、幹は茶室の床柱に用いられるような銘木で、非常に硬く重いものです。でも残念ながら果実として生食はできません。そのエキスが飲み物等に利用されております。話が変わりますが、高齢者の方々も体力や活動力、能力では現役世代にかないません。しかし、その人生の集約としての知識やその年代の経験、家族に対する思い遣りや大きな支え等で重要な役割を果たしています。

こうした意義付と合わせて、現在のかりん(藤沢)の施設敷地は従前自然豊かな環境にありで、畑地と果樹園、竹林でしたが、その一部に私が実生から育てた花梨の木が10本程とマルメロの木が3本ありました。それらは施設内と自宅に移植して生かしてあります。

前述の二つの意味と経過から高齢者が対象の特養ホームやグループホームには「かりん」と名付け、乳幼児対象の保育園は産毛をはやした「かりん」である「マルメロ」の名が入っています。

また、法人にとって重要な「あたたか、安心、いきいき」の三つのテーマはどのようにしてできたか？その生い立ちをお伝えしておきます。事業運営上PR手段として、開所時に施設の看護師だった方の紹介で、金子章さんというデザイナーにパンフレットの作成を依頼しました。A4の三つ折りで周辺の写真も入れて作ることにしました。素案を色々と論議をし、福祉事業の性格や責務を意義付けるものとして、高く掲げられ、象徴的で、永久に掲げられる「あたたか」、「安心」、「いきいき」の三つのテーマが出来上がったのです。

各事業所の職員の皆さん、時折、暗唱するとか思い出してみてください。或いは迷われたときにこの三つのテーマに沿っているかどうかで検証してみてください。この三つのテーマは謂わば法人の道筋を照らす「北斗七星」です。

以 上